２．全数把握対象感染症患者届出状況

（１）全数把握対象感染症の過去５年間の届出状況

	疾　患　名	2018 年（平成30年）	2019 年（令和元年）	2020 年（令和2年）	2021 年（令和3年）	2022 年（令和4年）
二類	結核	143	136	123	131	95
三類	細菌性赤痢		1			
	腸管出血性大腸菌感染症	11	14	17	19	19
	パラチフス	1				
四類	A型肝炎			1		1
	重症熱性血小板減少症候群	1	9		3	1
	つつが虫病	1		3		2
	デング熱		1			
	日本紅斑熱	4	12	7	10	13
	マラリア		1			
	ライム病					
	レジオネラ症	14	13	21	23	17
五類	アメーバ赤痢	3	7	1	2	2
	ウイルス性肝炎（E型、A型を除く）	2	2	1		1
	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	8	11	7	13	11
	急性弛緩性麻痺（急性白髄炎を除く）[1]	1				
	急性脳炎	4	2		1	
	クロイツフェルト・ヤコブ病	2	3	2	3	
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	3	4	2		2
	後天性免疫不全症候群	9	4	3	4	4
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1	4	5	3	2
	侵襲性髄膜炎菌感染症			1		
	侵襲性肺炎球菌感染症	9	11	7	6	5
	水痘（入院例）	6	5	3	4	1
	梅毒	30	30	23	21	67
	播種性クリプトコックス症	2	3	2	4	2
	破傷風	4		1	4	1
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症			1		
	百日咳[2]	31	80	3	43	67
	風しん	3	2			
	麻しん	1	1			
※	新型コロナウイルス感染症[3) 4) 5) 6)]			199	3,092	130,116

※新型インフルエンザ等感染症

[1)]平成30年5月1日より全数把握対象疾患感染症へ指定された。
[2)]平成30年1月1日より全数把握対象疾患感染症へ指定された。
[3)]令和2年2月1日より全数把握対象疾患感染症（指定感染症）へ指定された。
[4)]令和3年2月13日より全数把握対象疾患感染症（新型インフルエンザ等感染症）へ指定された。
[5)]令和4年9月26日より全数届出の見直しの運用が開始された。
[6)]令和5年5月8日より定点把握対象疾患感染症（五類感染症）へ指定された。

（２）各疾病の届出状況

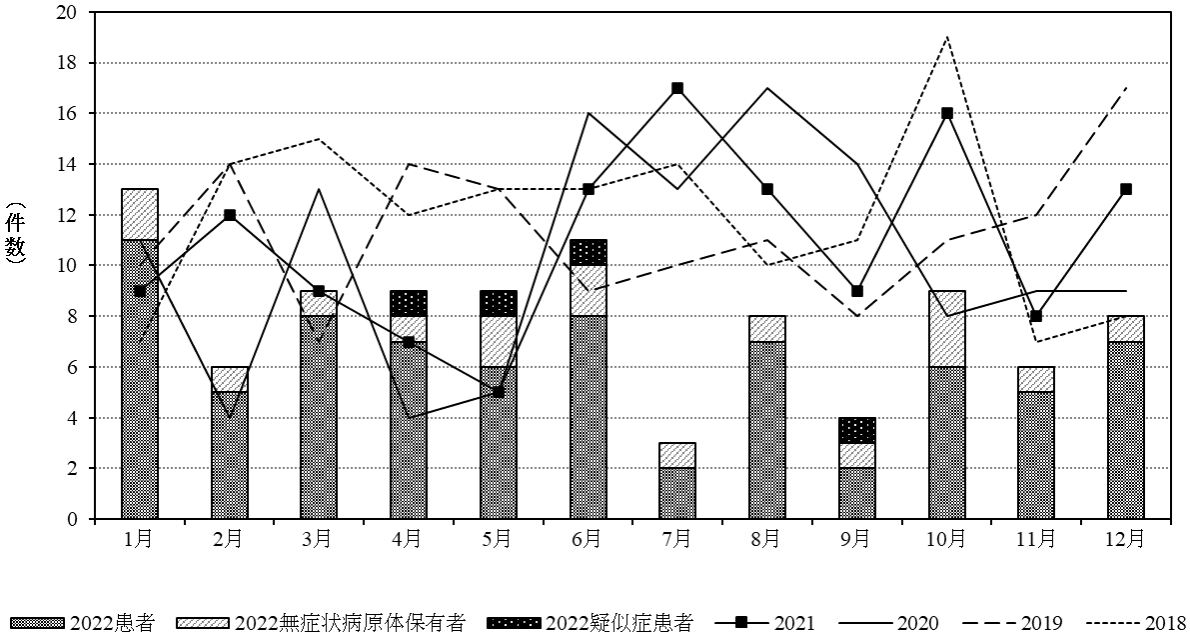
《一類感染症》

一類感染症の届出はなかった。

《二類感染症》

① 結核

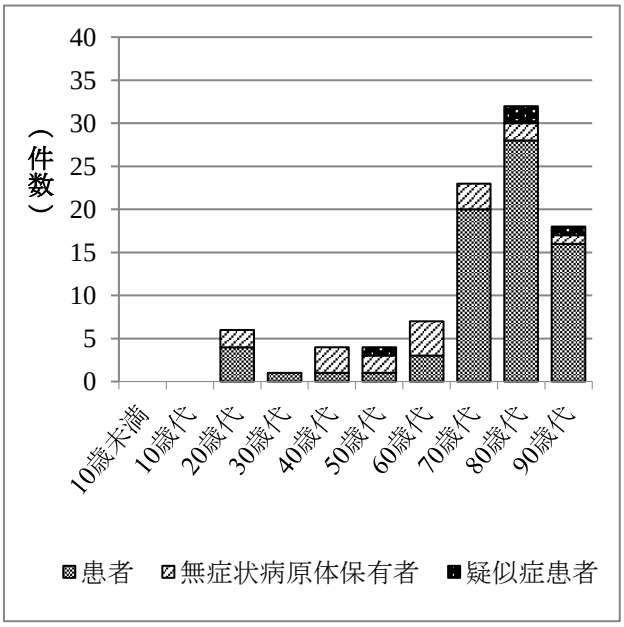
【結核の月別届出数】



【年齢・性別構成】

	男	女	計
10 歳未満	0	0	0
10 歳代	0	0	0
20 歳代	6	0	6
30 歳代	1	0	1
40 歳代	0	4	4
50 歳代	1	3	4
60 歳代	5	2	7
70 歳代	13	10	23
80 歳代	12	20	32
90 歳以上	4	14	18
計	42	53	95

【年齢・症状別届出数】



年間届出数は 95 件であった。過去 5 年間の年間届出数は 2017 年以降漸減傾向であり、2021 年にやや増加したものの 2022 年は減少した。

診断の類型では、「患者」が 74 件（内訳：肺結核 44 件、その他の結核 26 件、肺結核及びその他の結核 4 件）と最も多く、「無症状病原体保有者」は 17 件、「疑似症患者」は 4 件であった。

年齢別にみると、70 歳代（23 件）、80 歳代（32 件）、90 歳以上（18 件）と、70 歳以上の届出が合計 73 件と全体の約 77%を占めた。性別では、男性 42 件、女性 53 件と女性が多かった。

年齢別に症状を比較した場合、70 歳以上では「患者」が約 88%と大部分を占めたのに対し、70 歳未満では「無症状病原体保有者」の割合が約 50%、「疑似症患者」の割合が約 5%、「患者」の割合が約 45%であった。

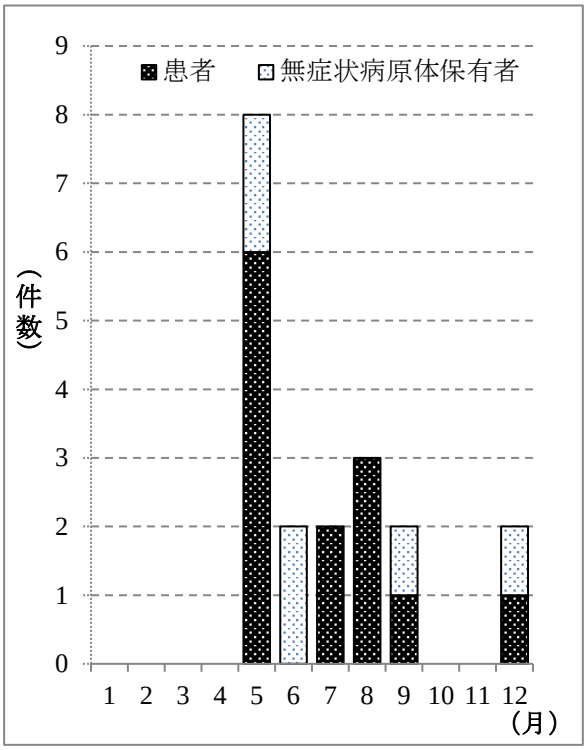
職業別では、医療・介護などの施設関係者や美容師、保育士等、集団感染に繋がる環境にある者も見られたことより、感染拡大防止のため感染予防啓発や感染対策の徹底が不可欠と考えられた。

《三類感染症》

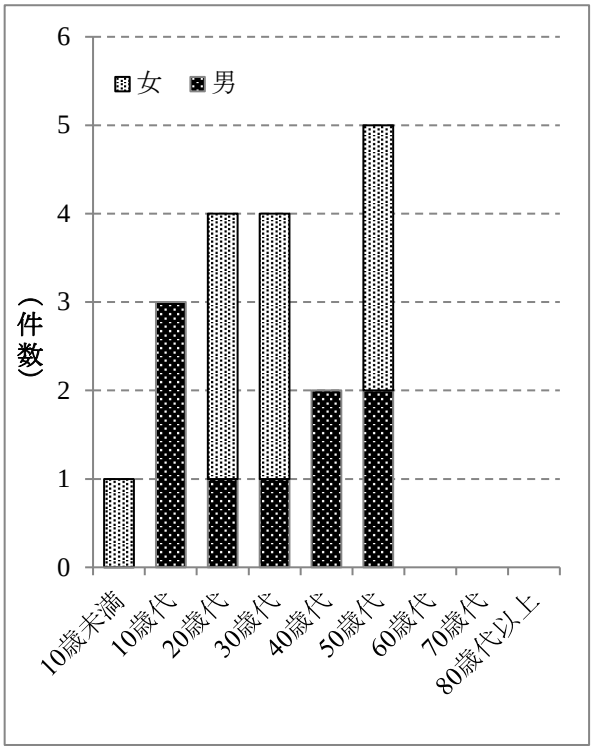
② 腸管出血性大腸菌感染症

診断月	性別	年齢	症状	型別	推定感染地域
5 月	女	30 歳代	腹痛、水様性下痢、血便	O157（VT1、VT2）	国内
5 月	男	50 歳代	無症状病原体保有者	O157（VT1、VT2）	国内
5 月	男	30 歳代	水様性下痢	O157（VT1、VT2）	国内
5 月	女	20 歳代	腹痛、水様性下痢、血便、発熱	O157（VT1、VT2）	国内
5 月	男	20 歳代	水様性下痢	O157（VT1、VT2）	国内
5 月	女	50 歳代	無症状病原体保有者	O61（VT1）	不明
5 月	女	20 歳代	嘔気、食欲不振	O157（VT1、VT2）	国内
5 月	女	50 歳代	水様性下痢	O61（VT1）	不明
6 月	女	30 歳代	無症状病原体保有者	O98（VT1）	国内
6 月	男	40 歳代	無症状病原体保有者	O157（VT1、VT2）	国内
7 月	男	40 歳代	腹痛、水様性下痢、血便	O157（VT1、VT2）	国内
7 月	女	30 歳代	腹痛、水様性下痢	O157（VT1、VT2）	不明
8 月	男	50 歳代	蕁麻疹	O23（VT2）	国内
8 月	男	10 歳代	腹痛、水様性下痢、血便	O157（VT2）	国内
8 月	男	10 歳代	腹痛、水様性下痢、血便	O157（VT2）	国内
9 月	女	50 歳代	無症状病原体保有者	O181（VT2）	国内
9 月	男	10 歳代	腹痛、水様性下痢、血便、嘔吐、発熱	O26（VT1、VT2）	国内
12 月	女	10 歳未満	水様性下痢、血便、嘔吐	O157（VT1、VT2）	国内
12 月	女	20 歳代	無症状病原体保有者	O157（VT1、VT2）	国内

【月別・症状別届出数】



【年齢・性別届出数】



年間届出数は、過去 5 年間では最も多かった前年と同じ 19 件であった。

一般に本疾患は夏から秋に多いとされる。月別の届出は、5 月～9 月と 12 月に見られた。中でも 5 月は 8 件で全体の約 42%を占めた。

年齢別では、10 歳未満～50 歳代で届出があり、性別では、男性 9 件、女性 10 件で大きな差はなかった。診断の類型では「患者」が 13 件、「無症状病原体保有者」6 件と「患者」が多かった。症状は腹痛、水様性下痢、血便など複数の症状を訴えていた。血清型別は、本疾患の多くを占める O157 が 13 件、O61 が 2 件、O23、O26、O98、O181 がそれぞれ 1 件であった。

「患者」報告例の感染経路や感染源は、経口感染 8 件（肉の喫食 6 件、その他 2 件）、接触感染 4 件、不明 7 件、感染地域は国内 16 件、不明 3 件であった。また、「無症状病原体保有者」6 件のうち 2 件は「患者」との接触者検診から判明し、1 件は経口感染、3 件は感染経路や感染源は不明であった。

《四類感染症》

③　A 型肝炎

診断月	性別	年齢	症　状	推定感染経路	推定感染地域
4 月	男	80 歳代	発熱、黄疸、肝機能異常、腹痛	経口感染	国内

年間届出数は 1 件であった。過去 5 年間の累計では、2020 年の 1 件を合わせて 2 件となった。届出は 4 月で、年齢及び性別は、80 歳代の男性 1 名、感染経路は経口感染、感染地域は国内であった。

④　重症熱性血小板減少症候群

診断月	性別	年齢	症　状	推定感染経路	推定感染地域
5 月	女	70 歳代	発熱、頭痛、筋肉痛、神経症状、腹痛、下痢、食欲不振、全身倦怠感、血小板減少、白血球減少、刺し口	マダニ等からの感染	国内

年間届出数は 1 件で、前年（3 件）より減少した。届出月は 5 月と、マダニの活動時期にあたる春であった。年齢及び性別は 70 歳代の女性 1 件であった。感染経路は、農作業などの野外活動時にマダニ等に刺咬され感染したと推定された。

徳島県では本疾患をはじめ、つつが虫病、日本紅斑熱など、病原体を保有するマダニ等の刺咬による感染症が毎年のように発生しており、重症化例も見られる。近年のキャンプブームや登山などの人気の高まりを受け、草むらや山林などマダニの生息地に人が近づく機会が増えており、アウトドアレジャー、林業、農作業など野外活動の際の、ダニ・昆虫媒介性疾患に対する予防対策の啓発が重要と考えられた。

⑤　つつが虫病

診断月	性別	年齢	症　状	推定感染経路	推定感染地域
2 月	女	50 歳代	発熱、刺し口、発疹	ツツガムシ等からの感染	国内
12 月	女	80 歳代	発熱、刺し口	不明	国内

年間届出数は 2 件であり、本年は 2 年ぶりの発生となった。届出月はいずれも患者報告数が多いとされる冬から春先にあたる 2 月と 12 月で、年齢及び性別は 50 歳代と 80 歳代の女性の 2 件であった。1 件は野外での作業中にツツガムシ等に刺咬され感染したと推定され、1 件は不明であった。

重症熱性血小板減少症候群などと同様、ダニ、昆虫媒介性疾患に対する予防対策の啓発が重要と考えられた。

⑥　日本紅斑熱

診断月	性別	年齢	症　状	推定感染経路	推定感染地域
5 月	女	80 歳代	発熱、頭痛、刺し口、発疹、肝機能異常、血小板低下	マダニ等からの感染	国内
5 月	女	70 歳代	発熱、刺し口、発疹、肝機能異常、肝脾腫	マダニ等からの感染	国内
6 月	女	80 歳代	発熱、刺し口、発疹、肝機能異常	マダニ等からの感染	国内
6 月	女	70 歳代	発熱、頭痛、刺し口、発疹、ＤＩＣ、肝機能異常	マダニ等からの感染	国内
7 月	女	20 歳代	発熱、頭痛、発疹、肝機能異常	マダニ等からの感染	国内
7 月	女	80 歳代	発熱、発疹、全身倦怠感	マダニ等からの感染	国内
8 月	女	40 歳代	発熱、頭痛、刺し口、発疹、肝機能異常、血小板低下	マダニ等からの感染	国内
9 月	男	80 歳代	発熱、頭痛、刺し口、発疹、尿蛋白、尿潜血	マダニ等からの感染	国内

診断月	性別	年齢	症　状	推定感染経路	推定感染地域
9 月	男	50 歳代	発熱、頭痛、刺し口、発疹、肝機能異常	マダニ等からの感染	国内
9 月	女	80 歳代	発熱、発疹、肝機能異常	マダニ等からの感染	国内
9 月	女	80 歳代	発熱、頭痛、刺し口、発疹、ＤＩＣ、肝機能異常、意識障害、腎障害	不明	国内
10 月	男	60 歳代	発熱、頭痛、発疹、肝機能異常	マダニ等からの感染	国内
10 月	女	60 歳代	発熱、刺し口、発疹、肝機能異常	マダニ等からの感染	国内

年間届出数は 13 件であった。過去 5 年間での年間届出数推移は 4～13 件と、年毎で差が大きい。届出月は 5～10 月と、重症熱性血小板減少症候群と同様にマダニの活動時期と一致していた。年齢別では 20～80 歳代まで幅広い年齢層から報告され、性別は男性 3 件、女性 10 件であった。感染経路は 12 件が農作業等の野外活動時にマダニに刺咬されたと推定され、1 件は不明であった。

⑦　レジオネラ症

診断月	性別	年齢	症　状	推定感染経路	推定感染地域
1 月	男	80 歳代	発熱、肺炎	不明	国内
1 月	男	50 歳代	発熱、呼吸困難、意識障害、肺炎、多臓器不全	水系感染	国内
2 月	男	70 歳代	肺炎	水系感染	国内
5 月	男	70 歳代	発熱、呼吸困難、肺炎	水系感染	国内
5 月	女	70 歳代	発熱、肺炎	不明	国内
6 月	女	30 歳代	発熱、咳嗽、肺炎	水系感染	国内
6 月	男	80 歳代	発熱、咳嗽、呼吸困難、肺炎	水系感染	国内
7 月	男	70 歳代	発熱、下痢、肺炎	不明	国内
7 月	女	60 歳代	咳嗽、頭痛	水系感染	国内
7 月	男	60 歳代	発熱、咳嗽、呼吸困難、意識障害、肺炎	不明	国内
7 月	男	70 歳代	咳嗽、肺炎、血痰、胸痛、咽頭痛	水系感染	国内
9 月	男	70 歳代	発熱、咳嗽、呼吸困難、下痢、肺炎	水系感染	国内
10 月	女	90 歳代	発熱、咳嗽、呼吸困難、多臓器不全	不明	国内
10 月	女	70 歳代	発熱、咳嗽、肺炎	水系感染	国内
10 月	男	80 歳代	発熱、咳嗽、肺炎	不明	国内
11 月	男	50 歳代	発熱、咳嗽、肺炎	水系感染	国内
12 月	女	90 歳代	発熱、咳嗽	不明	不明

年間届出数は 17 件であった。2015 年以前は年間 1～5 件で推移していたが、2016 年以降は毎年 10 件を超えており、過去 5 年間で最も多かった前年より減少したものの、漸増傾向にある。届出に季節性は見られず、年齢は 30～90 歳代と幅広く、性別は男性 11 件、女性 6 件であった。病型は 14 件が「肺炎型」で、3 件が「ポンティアック熱型」であった。感染経路は水系感染が 10 件、不明 7 件、感染地域は国内 16 件、不明 1 件であった。

《五類感染症》

⑧　アメーバ赤痢

診断月	性別	年齢	症　状	推定感染経路	推定感染地域
4 月	女	60 歳代	下痢、粘血便、しぶり腹、腹痛、大腸粘膜異常所見	不明	国内
12 月	女	50 歳代	大腸粘膜異常所見	異性間性的接触	国内

年間届出数は 2 件であった。2019 年は 7 件あったが、2020 年以降は毎年 1～2 件で推移している。年齢及び性別は 50 歳代と 60 歳代の女性で、病型はいずれも「腸管アメーバ症」であった。感染経路は異性間性的接触 1 件、不明 1 件で、感染地域は国内と推定された。

⑨　ウイルス性肝炎

診断月	性別	年齢	症　状	推定感染経路	推定感染地域
3 月	女	30 歳代	嘔吐	針刺事故	国内

年間届出数は 1 件で、2 年ぶりの届出であった。年齢及び性別は、30 歳代の女性であった。病型は「C 型肝炎」、感染経路は、針刺事故で、感染地域は国内と推定された。

⑩　カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症

診断月	性別	年齢	症　状	推定感染原因・経路	推定感染地域
2 月	男	60 歳代	化膿性肝膿瘍	以前からの保菌	国内
2 月	男	70 歳代	菌血症、敗血症	不明	国内
3 月	男	70 歳代	髄膜炎	手術部位感染	国内
6 月	男	50 歳代	軟部組織感染症	以前からの保菌	国内
6 月	男	70 歳代	腹膜炎、縫合不全	手術部位感染	国内
7 月	女	70 歳代	皮膚炎	以前からの保菌	国内
8 月	女	80 歳代	尿路感染症、敗血症	その他	国内
9 月	男	60 歳代	敗血症、胆管炎	以前からの保菌	国内
9 月	女	50 歳代	腹膜炎	医療器具関連感染	国内
10 月	男	80 歳代	胆管炎	以前からの保菌	国内
12 月	女	80 歳代	尿路感染症	不明	不明

年間届出数は 11 件であった。年齢は 50～80 歳代で、性別は男性 7 件、女性 4 件であった。感染経路は手術部位や医療器具を介しての感染 3 件、以前からの保菌 5 件、その他 1 件、不明 2 件であった。感染地域は国内 10 件、不明 1 件と推定された。

⑪　劇症型溶血性レンサ球菌感染症

診断月	性別	年齢	症　状	推定感染経路	推定感染地域
4 月	女	90 歳代	ショック、ＤＩＣ、全身性紅斑性発疹	創傷感染	国内
11 月	男	80 歳代	ショック、腎不全、ＤＩＣ	不明	国内

年間届出数は 2 件であった。過去 5 年間では 0～4 件報告されている。年齢は 80 歳代と 90 歳代で、

性別は男性 1 件、女性 1 件であった。感染経路は、創傷感染 1 件、不明 1 件、感染地域はいずれも国内と推定された。

⑫　後天性免疫不全症候群（HIV）

診断月	性別	年齢	症　状	推定感染経路	推定感染地域
3 月	男	50 歳代	無症状病原体保有者	不明	国外
4 月	男	50 歳代	肺結核	同性間性的接触	国外
7 月	男	30 歳代	カンジダ口内炎	同性間性的接触	国内
12 月	男	30 歳代	無症状病原体保有者	同性間性的接触	国外

年間届出数は 4 件であり、過去 5 年間の届出数は 3～9 件で推移している。年齢別は 30 歳代 2 件、50 歳代 2 件で、性別は全て男性であった。病型は「AIDS」1 件、「無症候性キャリア」2 件、その他 1 件で、感染経路は同性間での性的接触 3 件、不明 1 件であった。感染地域は、国内での感染が 1 件、国外での感染が 3 件と推定された。

例年、県内保健所で実施される無料検査にて発見され、地域連携医療機関での診断や報告につながっているが、本年は新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い検査の機会が減少したため、十分な診断に結びつかなかった可能性が懸念される。今後も、積極的な普及啓発を推進し、HIV 感染の早期発見による早期治療と感染拡大の抑制に努めることが重要と考えられた。

⑬　侵襲性インフルエンザ菌感染症

診断月	性別	年齢	症　状	推定感染経路	推定感染地域
4 月	男	90 歳代	発熱、肺炎、菌血症	その他	不明
7 月	男	100 歳代	発熱、肺炎、菌血症	飛沫・飛沫核感染	国内

年間届出数は 2 件であり、過去 5 年間の届出数は 1～5 件で推移している。年齢別は 90 歳代 1 件、100 歳代 1 件で、いずれも性別は男性であった。感染経路は飛沫・飛沫核感染 1 件、その他 1 件、感染地域は国内 1 件、不明 1 件と推定された。

⑭　侵襲性肺炎球菌感染症

診断月	性別	年齢	症　状	推定感染経路	推定感染地域
3 月	男	60 歳代	発熱、菌血症	不明	国内
6 月	女	50 歳代	発熱	不明	不明
7 月	女	10 歳未満	発熱、菌血症	不明	国内
10 月	女	10 歳未満	発熱、咳、肺炎、中耳炎、菌血症	病原体保有者からの感染	国内
11 月	男	10 歳未満	発熱、咳、菌血症	飛沫・飛沫核感染	国内

年間届出数は 5 件であり、過去 5 年間の届出数は 5～11 件で推移している。年齢別は 10 歳未満 3 件、50 歳代 1 件、60 歳代 1 件で、性別は男性 2 件、女性 3 件であった。感染経路は飛沫・飛沫核感染が 1 件、病原体保有者からの感染 1 件、不明 3 件、感染地域は国内 4 件、不明 1 件と推定された。

⑮　水痘（入院例）

診断月	性別	年齢	症　状	推定感染経路	推定感染地域
5 月	女	10 歳未満	発熱、発疹	不明	国内

年間届出数は 1 件で、過去 5 年間の届出数は 1～6 件で推移している。年齢は 10 歳未満で、性別は女性であった。感染経路は不明で、感染地域は国内と推定された。

⑯　梅毒

診断月	性別	年齢	症　状	推定感染経路	推定感染地域
1 月	男	40 歳代	初期硬結（性器）、硬性下疳（性器）、鼠径部リンパ節腫脹（無痛性）	性的接触	国内
1 月	男	20 歳代	初期硬結（性器）、梅毒性バラ疹	異性間性的接触	国内
1 月	女	50 歳代	初期硬結（性器）	不明	国内
2 月	女	30 歳代	梅毒性バラ疹	不明	国内
3 月	女	30 歳代	初期硬結（性器）	異性間性的接触	国内
3 月	男	20 歳代	初期硬結（性器）	異性間性的接触	国内
3 月	男	40 歳代	硬性下疳（性器）	不明	国内
3 月	女	40 歳代	硬性下疳（性器）、扁平コンジローマ	異性間性的接触	国内
3 月	女	20 歳代	丘疹性梅毒疹	異性間性的接触	国内
3 月	男	50 歳代	硬性下疳（性器）	異性間性的接触	国内
4 月	女	20 歳代	硬性下疳（性器）	異性間性的接触	国内
4 月	女	30 歳代	梅毒性バラ疹	異性間性的接触	国内
4 月	男	40 歳代	無症状病原体保有者	異性間性的接触	国内
4 月	男	60 歳代	無症状病原体保有者	不明	国内
4 月	男	20 歳代	初期硬結（性器）、鼠径部リンパ節腫脹（無痛性）	異性間性的接触	国内
5 月	男	60 歳代	硬性下疳（性器）、鼠径部リンパ節腫脹（無痛性）、梅毒性バラ疹	異性間性的接触	国内
5 月	男	20 歳代	梅毒性バラ疹	異性間性的接触	国内
5 月	女	20 歳代	硬性下疳（性器）、鼠径部リンパ節腫脹（無痛性）	異性間性的接触	国内
5 月	女	20 歳代	無症状病原体保有者	不明	国内
5 月	男	20 歳代	腋窩リンパ節炎	異性間性的接触	国内
5 月	男	60 歳代	初期硬結（性器）、硬性下疳（性器）、丘疹性梅毒疹	異性間性的接触	国内
5 月	男	50 歳代	初期硬結（性器）	異性間性的接触	国内
6 月	男	20 歳代	初期硬結（性器）	異性間性的接触	国内
6 月	男	40 歳代	梅毒性バラ疹	不明	不明
6 月	女	40 歳代	梅毒性バラ疹	性的接触	国内

診断月	性別	年齢	症　状	推定感染経路	推定感染地域
6 月	男	50 歳代	初期硬結（性器）、硬性下疳（性器）、鼠径部リンパ節腫脹（無痛性）	性的接触	国内
6 月	男	20 歳代	硬性下疳（性器）、扁平コンジローマ	同性間性的接触	国内
6 月	男	30 歳代	硬性下疳（口腔咽頭）、丘疹性梅毒疹	異性間性的接触	国内
7 月	男	40 歳代	初期硬結（性器）	不明	不明
7 月	男	20 歳代	初期硬結（性器）	異性間性的接触	国内
7 月	男	20 歳代	硬性下疳（性器）	異性間性的接触	国内
7 月	男	50 歳代	初期硬結（性器）、梅毒性バラ疹	異性間性的接触	国内
7 月	男	10 歳代	初期硬結（性器）	異性間性的接触	国内
7 月	男	60 歳代	心血管症状	不明	不明
7 月	男	20 歳代	初期硬結（性器）	異性間性的接触	国内
7 月	男	50 歳代	梅毒性バラ疹	不明	不明
8 月	女	50 歳代	硬性下疳（口腔咽頭）	不明	国内
8 月	女	20 歳代	無症状病原体保有者	不明	国内
8 月	女	20 歳代	梅毒性バラ疹	異性間性的接触	国内
8 月	男	70 歳代	硬性下疳（性器）	異性間性的接触	国内
8 月	男	30 歳代	初期硬結（性器）	不明	不明
8 月	男	50 歳代	初期硬結（性器）	異性間性的接触	国内
8 月	男	40 歳代	初期硬結（性器）	異性間性的接触	国内
8 月	男	30 歳代	丘疹性梅毒疹	異性間性的接触	国内
9 月	女	20 歳代	初期硬結（性器）	異性間性的接触	国内
9 月	男	40 歳代	硬性下疳（性器）	異性間性的接触	国内
10 月	女	60 歳代	梅毒性バラ疹	異性間性的接触	国内
10 月	男	20 歳代	初期硬結（性器）、鼠径部リンパ節腫脹（無痛性）	異性間性的接触	国内
10 月	男	40 歳代	初期硬結（性器）、硬性下疳（性器）、鼠径部リンパ節腫脹（無痛性）	異性間性的接触	国内
10 月	男	30 歳代	初期硬結（性器）、硬性下疳（性器）	異性間性的接触	国内
10 月	男	40 歳代	無症状病原体保有者	異性間性的接触	国内
10 月	女	30 歳代	丘疹性梅毒疹	異性間性的接触	国内
10 月	女	50 歳代	無症状病原体保有者	異性間性的接触	国内
10 月	男	30 歳代	梅毒性バラ疹、扁桃炎、頸部リンパ節腫大	異性間性的接触	国内
10 月	男	30 歳代	無症状病原体保有者	異性間性的接触	国内
10 月	男	30 歳代	鼠径部リンパ節腫脹（無痛性）	異性間性的接触	国内
11 月	男	50 歳代	硬性下疳（性器）	異性間性的接触	国内
11 月	男	50 歳代	無症状病原体保有者	異性間性的接触	国内

診断月	性別	年齢	症　状	推定感染経路	推定感染地域
11 月	男	20 歳代	梅毒性バラ疹	異性間性的接触	不明
11 月	男	30 歳代	硬性下疳（性器）	異性間性的接触	国内
11 月	男	30 歳代	初期硬結（口唇）、鼠径部リンパ節腫脹（無痛性）	性的接触	国内
11 月	男	60 歳代	無症状病原体保有者	不明	国内
11 月	男	40 歳代	硬性下疳（性器）	異性間性的接触	国内
11 月	男	30 歳代	硬性下疳（性器）	異性間性的接触	国内
12 月	女	20 歳代	無症状病原体保有者	異性間性的接触	国内
12 月	男	50 歳代	初期硬結（性器）	異性間性的接触	国内
12 月	男	50 歳代	鼠径部リンパ節腫脹（無痛性）	同性間性的接触	国内

年間届出数は 67 件で、過去 5 年間の届出数（21～30 件）に比べて、大幅に増加した。年齢別は 10～40 歳代 47 件、50～70 歳代 20 件と若年層に多く、性別は男性 49 件、女性 18 件であった。性別で症状を比較した場合、男性では「患者」が約 88%、女性では「患者」の割合は約 78%であった。感染地域は国内が 61 件と推定され、不明 6 件であった。

現在、我が国では若年層を中心に梅毒患者の増加が大きな問題となっている。HIV と同様に、発生報告の多い 10～40 歳代を中心に、感染者及びパートナーともに積極的な感染予防啓発が重要と考えられた。

⑰　播種性クリプトコックス症

診断月	性別	年齢	症　状	推定感染原因	推定感染地域
1 月	女	70 歳代	発熱、呼吸器症状、胸部異常陰影、真菌血症	免疫不全	国内
12 月	女	80 歳代	発熱	免疫不全	国内

年間届出数は 2 件であった。過去 5 年間の届出数は 2～4 件で推移している。年齢別は 70 歳代 1 件、80 歳代 1 件で、性別はいずれも女性であった。感染原因はいずれも免疫不全で、感染地域は国内と推定された。

⑱　破傷風

診断月	性別	年齢	症　状	推定感染経路	推定感染地域
1 月	男	70 歳代	筋肉のこわばり、開口障害、嚥下障害、発語障害、痙笑、呼吸困難（痙攣性）	創傷感染	国内

年間届出数は 1 件であった。過去 5 年間の届出数は 0～4 件で推移している。年齢は 70 歳代で、性別は男性であった。感染経路は創傷感染で、感染地域は国内と推定された。

⑲　百日咳

診断月	性別	年齢	症　状	推定感染経路	推定感染地域
2 月	女	10 歳未満	持続する咳、夜間の咳き込み	児童福祉施設	国内
2 月	男	10 歳未満	持続する咳、夜間の咳き込み	不明	国内
2 月	男	10 歳代	持続する咳、夜間の咳き込み、呼吸苦	学校感染	国内
2 月	女	10 歳代	持続する咳、夜間の咳き込み	学校感染	国内
2 月	男	10 歳代	持続する咳、夜間の咳き込み	学校感染	国内
2 月	男	10 歳代	持続する咳、夜間の咳き込み	家族内感染	国内
2 月	女	10 歳未満	持続する咳、夜間の咳き込み	不明	国内
2 月	女	10 歳未満	持続する咳、夜間の咳き込み	学校感染	国内
2 月	女	10 歳未満	持続する咳、夜間の咳き込み、ウープ	家族内感染	国内
2 月	男	10 歳未満	持続する咳、夜間の咳き込み	家族内感染	国内
2 月	男	10 歳未満	持続する咳、夜間の咳き込み	児童福祉施設	国内
3 月	男	10 歳未満	持続する咳、夜間の咳き込み	児童福祉施設	国内
3 月	女	10 歳未満	持続する咳、夜間の咳き込み	児童福祉施設	国内
3 月	男	10 歳未満	持続する咳、夜間の咳き込み	児童福祉施設	国内
3 月	女	10 歳未満	持続する咳、夜間の咳き込み	児童福祉施設	国内
3 月	男	10 歳未満	持続する咳、夜間の咳き込み	不明	国内
3 月	女	10 歳未満	持続する咳、夜間の咳き込み	不明	国内
3 月	男	10 歳未満	持続する咳、夜間の咳き込み	不明	国内
3 月	男	10 歳未満	持続する咳、夜間の咳き込み	不明	国内
3 月	女	10 歳未満	持続する咳、夜間の咳き込み	児童福祉施設	国内
3 月	女	10 歳未満	持続する咳、夜間の咳き込み、呼吸苦	児童福祉施設	国内
3 月	男	10 歳未満	持続する咳	家族内感染	国内
3 月	男	10 歳未満	持続する咳	不明	国内
3 月	女	10 歳未満	持続する咳、夜間の咳き込み	不明	国内
3 月	男	10 歳代	持続する咳、夜間の咳き込み	学校感染	国内
3 月	男	10 歳未満	持続する咳、夜間の咳き込み	不明	国内
3 月	女	10 歳未満	持続する咳、夜間の咳き込み	不明	不明
3 月	男	10 歳代	持続する咳、夜間の咳き込み	不明	国内
4 月	女	10 歳未満	持続する咳、夜間の咳き込み	不明	国内
4 月	女	20 歳代	持続する咳、夜間の咳き込み	不明	国内
4 月	女	10 歳未満	持続する咳、夜間の咳き込み	不明	国内
4 月	女	10 歳未満	持続する咳	不明	国内
4 月	男	10 歳未満	持続する咳、夜間の咳き込み	不明	国内
4 月	女	10 歳未満	持続する咳	不明	国内
4 月	男	10 歳未満	持続する咳、夜間の咳き込み	不明	国内
4 月	女	10 歳未満	持続する咳	不明	国内

診断月	性別	年齢	症　状	推定感染経路	推定感染地域
4 月	男	10 歳未満	持続する咳、夜間の咳き込み	不明	国内
4 月	男	10 歳未満	持続する咳、夜間の咳き込み	不明	国内
4 月	男	10 歳代	持続する咳、夜間の咳き込み	不明	国内
4 月	女	10 歳未満	持続する咳、夜間の咳き込み	児童福祉施設	国内
4 月	女	50 歳代	持続する咳、夜間の咳き込み、呼吸苦	不明	国内
4 月	男	10 歳未満	持続する咳	不明	国内
4 月	男	10 歳未満	持続する咳、夜間の咳き込み	不明	国内
4 月	女	10 歳代	持続する咳、夜間の咳き込み	不明	国内
4 月	女	10 歳未満	持続する咳	不明	国内
4 月	男	10 歳未満	持続する咳、夜間の咳き込み、呼吸苦	不明	国内
5 月	男	10 歳未満	持続する咳、夜間の咳き込み	不明	国内
5 月	男	10 歳未満	持続する咳、夜間の咳き込み	不明	国内
5 月	男	10 歳未満	持続する咳、夜間の咳き込み	家族内感染	国内
5 月	女	10 歳未満	持続する咳	不明	国内
5 月	女	10 歳代	持続する咳、夜間の咳き込み	不明	国内
5 月	男	10 歳未満	持続する咳、夜間の咳き込み	家族内感染	国内
5 月	男	10 歳代	持続する咳、夜間の咳き込み	不明	国内
5 月	女	40 歳代	持続する咳	家族内感染	国内
5 月	男	10 歳代	持続する咳、夜間の咳き込み	不明	国内
5 月	男	10 歳未満	持続する咳、夜間の咳き込み	不明	国内
5 月	女	70 歳代	持続する咳、夜間の咳き込み	不明	国内
7 月	女	10 歳未満	持続する咳、夜間の咳き込み	不明	国内
7 月	女	10 歳代	持続する咳、夜間の咳き込み	不明	国内
7 月	男	10 歳未満	持続する咳、夜間の咳き込み	不明	国内
7 月	女	10 歳代	持続する咳	家族内感染	国内
7 月	女	10 歳未満	持続する咳	不明	国内
7 月	男	10 歳代	持続する咳	不明	国内
7 月	女	10 歳未満	持続する咳	不明	国内
7 月	女	10 歳未満	持続する咳	不明	国内
7 月	女	10 歳未満	持続する咳	不明	国内
11 月	女	10 歳代	持続する咳、夜間の咳き込み	不明	国内

百日咳は、以前は小児科定点把握疾患として報告されていたが、2018 年 1 月 1 日より五類全数把握対象感染症に指定された。

年間届出数は 67 件と、前年（43 件）より増加した。年齢別は 10 歳未満 48 件、10 歳代 15 件、20 歳代 1 件、40～50 歳代 2 件、70 歳代 1 件で、性別は男性 33 件、女性 34 件であった。推定感染経路は家族内感染が 8 件、児童福祉施設や学校関連の感染が 14 件、不明が 45 件であった。感染地域は国内と推定されるものが 66 件、不明が 1 件であった。

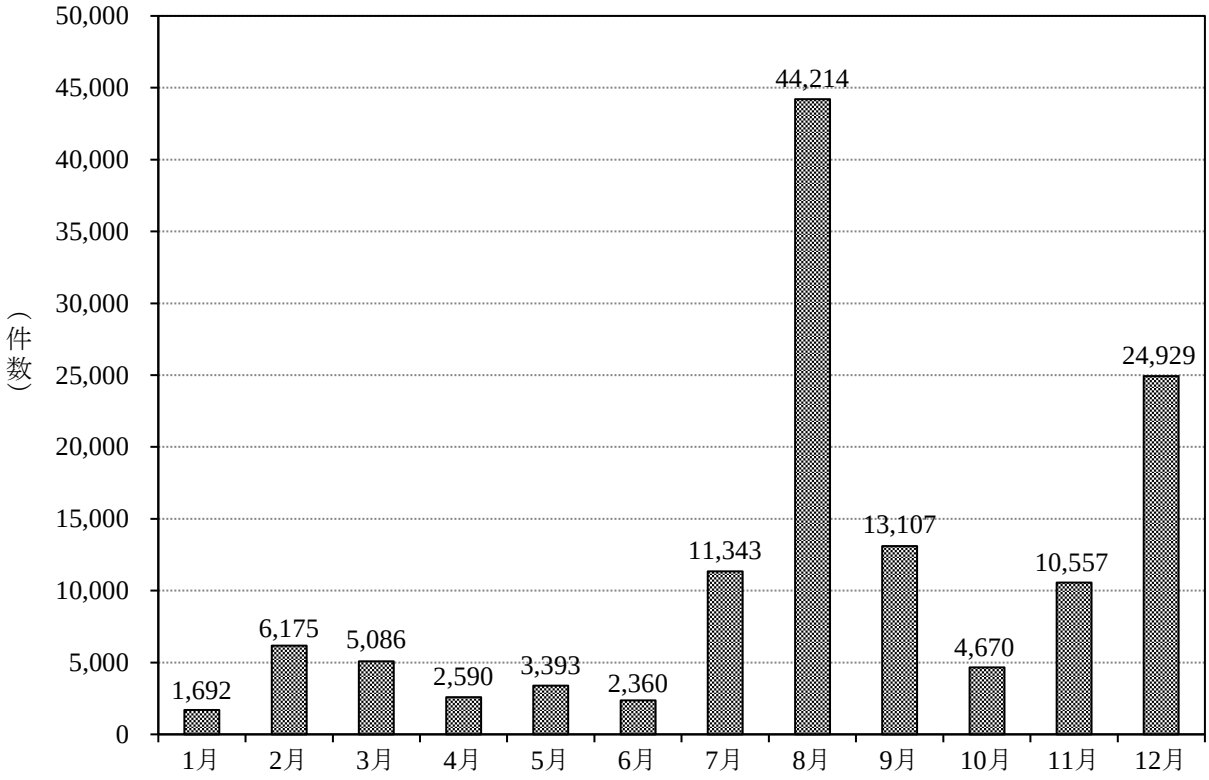
《新型インフルエンザ等感染症》

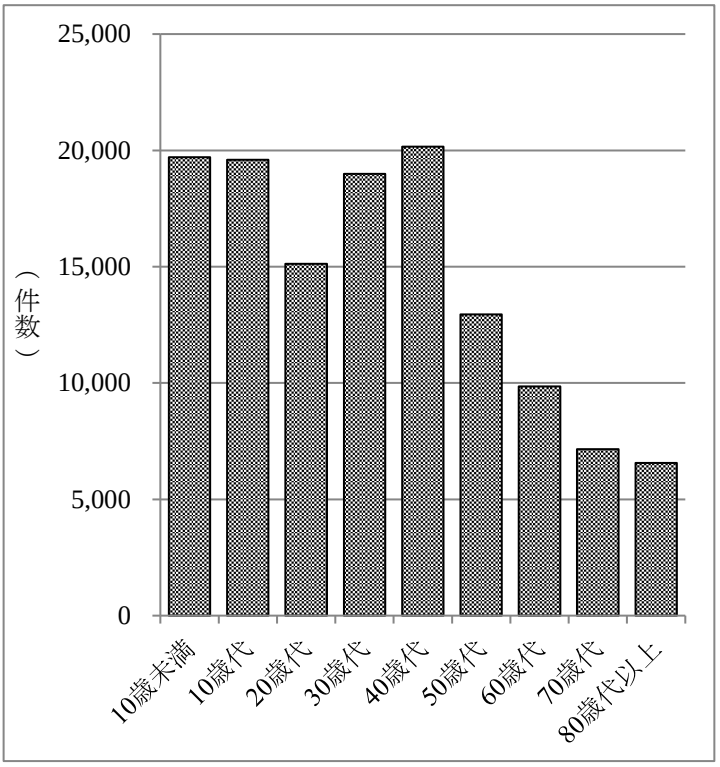
⑳　新型コロナウイルス感染症

2020 年 2 月 1 日より指定感染症と定められ、2021 年 2 月 13 日からは、期限の定めなく対策が講じられるよう、新型インフルエンザ等感染症の中に新型コロナウイルス感染症、再興型コロナウイルス感染症を追加することと改正された。

2022 年の届出数は 130,116 件であり、月別届出数は 8 月の 44,214 件が最も多く、次いで 12 月の 24,929 件、9 月の 13,107 件の順であった。長期休暇など人々が移動する機会が多い時期に感染者が増加する傾向が認められた。年齢別では、40 歳代が 20,165 件と全体の約 15%を占めた。続いて 10 歳未満 19,701 件、10 歳代 19,603 件、30 歳代 18,986 件の順に多かった。

【新型コロナウイルス感染症の月別届出数】



【年齢別届出数】

	人数	比率（%）
10 歳未満	19,701	15
10 歳代	19,603	15
20 歳代	15,128	12
30 歳代	18,986	15
40 歳代	20,165	15
50 歳代	12,956	10
60 歳代	9,850	8
70 歳代	7,156	5
80 歳代以上	6,571	5
計	130,116	100